HIOKI

CORPORATE PROFILE

ANNIVERSARY
1935 - 2025

未来ニ先行セヨ。

HIOKI 90th Anniversary

持続可能な社会の実現を目指して 世界各国のニーズに柔軟に対応し、グループ全体で課題解決に挑む

日置電機株式会社
代表取締役社長
岡澤 尊宏
Takahiro Okazawa

1985年に創業50周年を迎えた際、地球の上に立ち矢を放つ人の姿を彫り上げた「夢えの挑戦」像を制作しました。当時、国内市場が中心だったHIOKIが、世界を股に掛けて活躍するようになるという思いが込められたものです。そして創業90周年を迎えた2025年、HIOKIは世界10か国に販売拠点をかまえる会社になりました。電気計測器の開発、生産、販売・サービスを通じて、社会の発展と人々の生活を支えるHIOKIのソリューションは、世界規模で展開されています。

2019年には企業理念である「人間性の尊重」と「社会への貢献」を礎に、長期経営方針「ビジョン2030」を策定し、「持続可能な社会の実現」という課題解決の方向性を明確にしました。脱炭素社会への取り組みは、国や地域ごとに政策が異なります。それぞれのニーズにいち早く対応するためには、顧客と向き合い、困りごとがあったら相談をしてもらえる関係性を築くことが重要です。現地の文化を知るには直接触れ合うことが大切なので、国内のスタッフにも積極的に海外へ出るように推奨しています。

一方で、生産拠点は国内に集約しています。モノづくりが日本の得意分野であることはもちろん、拠点が分散されないからこそ、月産数台から数千台、数百種にわたる変種変量生産に対応でき、HIOKIが掲げる2035年のスコープ3のカーボンニュートラルも達成に近づくと考えたからです。ただし、中国、インド、ヨーロッパなど、世界の販売拠点からの声にも柔軟に対応する必要があります。そのため、2025年から「グループ一体経営」を掲げ、販売拠点を問わずHIOKIグループ全体で最良のサービスを提供できる体制づくりを目指しています。

2035年には、創業100周年を迎えます。「ビジョン2030」の達成、さらにはその先の未来へ。HIOKIの理念やビジョンに共感いただける皆様と共に、持続可能な社会の実現に向けて課題解決に取り組んでいきます。

創業100年に向け、“産業のマザーツール”電気計測器で社会のイノベーションを加速

HIOKIの活動は、1986年に制定された「人間性の尊重」と「社会への貢献」の企業理念に基づいており、この理念を礎とした“理念ドリブン”の考え方は、HIOKIグループ全社員に浸透しています。

「ビジョン2030」で描いているのが、HIOKIの存在価値と目指すべき未来像です。脱炭素社会の実現に挑む顧客の電気計測ニーズを的確に捉え、イノベーションを推進していくことを目指しています。

この目標を達成するには、時代の一歩先を見据え、全社員が「ソリューションクリエイター」として自ら考え行動することが求められます。HIOKIはこれまで多種多様な製品を展開し、多くのニーズに応えてきました。それらの製品群が山々のように連なる「アルプス型」企業として、今後もそれぞれの分野でニッチトップを目指し成長を続けます。

HIOKIの理念

人間性の尊重

HIOKIは、個人の創造性や個性を育み、社員一人ひとりが輝く自己実現の場となるために、可能性や能力を最大限に発揮できる自由闊達な環境をつくります。個人の成長がHIOKIの成長の原動力となり、永続的に成長発展していくために、個人の可能性と組織の目標を高い次元で調和させる「人間性尊重の経営」を実践しています。

社会への貢献

HIOKIはメーカーとして、社会に必要とされる高品質の製品と最高のサービスを提供することで、社会の安心と発展、人々の幸せに貢献します。
また、地域社会の一員として、教育・文化・環境面でも貢献できる企業となるべく、育成支援や環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

長期経営方針「ビジョン2030」

ミッション［HIOKIの使命］

電気計測を通してお客様の安全で有効なエネルギー活用を促進し、社会の安心と発展に貢献する。

ビジョン［10年後のありたい姿］

「測る」の先へ。

HIOKIは、業界のフロントランナーとして「測る」を進化させ続け、世界のお客様と共に持続可能な社会をつくるソリューションクリエイターになる。

「ビジョン2030」実現のための5つのイノベーション

- 新しい顧客価値の創出
- 新しい生産体制の構築
- 新しい社会を顧客と協創する関係構築
- 新しいサプライチェーンの構築
- 新しい組織の実現

「測る」と共に走り続ける HIOKIのあゆみ

1935年の創業以来、積み重ねてきたHIOKIの創造と挑戦の歴史。
電気計測一筋で事業を展開し、お客様のご期待を上回る価値を創造するために、
独自技術の追求と新製品開発に力を注ぎ続けてきました。根幹となるこの考えを、
来たる100周年とその先のステージへと繋いでいきます。

1945
戦火により長野県坂城町に移転

1952
日置電機株式会社設立

1978
国内初の「クランプ式電力計3133」オイルショック時の省エネ推進に貢献

1970年代のオイルショック時、省エネ推進のため開発された国内初のクランプ式電力計。誰でも安全・簡単に電力測定が可能になり、工場の電力コスト減をもたらすなど、産業界から圧倒的な支持を得ました。

1985
創業50周年記念式典を開催

記念像「夢えの挑戦」を制作（1984年）

1993
HIOKIロッジ（社員寮）竣工

1935 — 1950 — 1970 — 1990

指示電気計器を原点に製造能力を拡大

創業期 1935-51

1935年、東京都港区で日置美三が指示電気計器（メーター）を製作したことが当社の原点です。その後、日置電機計器製作所を設立するも、1945年に第二次世界大戦の戦禍から逃れるため長野県坂城町に拠点を移すことに。翌年には回路試験器（テスタ）の第一号器を発売し、わが国の復興と共に順次製造能力を拡大させ、会社設立への弾みをつけました。

会社設立後は量産技術を軸に輸出も振興

量産期 1952-72

1952年に日置電機株式会社を設立し、米国MIL規格によるマルチテスタの大量受注を獲得。独自技術によるテスターと指示電気計器の量産を主軸とする事業を継続しつつ、新たな事業展開を模索していました。その後、オーディオブームを背景にVU計の量産を開始。創業当初から海外市場に活路を見出し、輸出の振興と大量生産が事業の軸に。

自社ブランド製品の開発により基盤を築く

展開期 1973-1990

これまでの量産を軸とした体制から、「自主技術の確立」と「経営の近代化」を基本方針に高付加価値商品を自社の力で生み出していく体質への転換を目指しました。1980年代には波形記録装置と自動試験装置が加わり、現代の経営基盤となる製品カテゴリーが確立されました。また、1990年に新本社工場「HIOKIフォレストヒルズ」が完成し長野県上田市に移転。

1996
ビルや施設でのバッテリー測定器「バッテリハイテスタ3550」

ビルや施設でのUPS（無停電電源装置）需要の増加と共に、バッテリーのメンテナンスの重要度も急上昇。お客様の要望にお応えし、UPSを停止せずにバッテリーの劣化状態を瞬時に判定できるテスターが誕生しました。

1998
アメリカにHIOKI USA CORPORATIONを設立

2006
本社工場隣に新工場（ソリューションファクトリー）完成

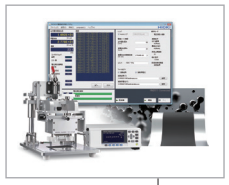
2007
中国に日置（上海）商貿有限公司を設立

2014
世界初！金属非接触で電力を安全に測定するセンサを用いた「クランプオンパワーロガーPW3365」

安全な測定を求めるニーズにより、絶縁された被覆電線の上からはさむだけで正確に電圧測定できるセンサを用いた「クランプオンパワーロガーPW3365」を開発。従来、懸念されたショートや感電事故を回避し、測定の安全性に大きく貢献しました。

2015
HIOKIイノベーションセンター竣工

2019
脱炭素社会の実現に寄与する「電極抵抗測定システムRM2610」



今まで実現が難しかった抵抗特性の数値化に成功。電極シートの特性や品質傾向などの把握が容易になり、リチウムイオン電池の品質と開発効率向上をもたらし、脱炭素社会の実現に寄与しています。

2020
長期経営方針「ビジョン2030」を発表

2024
上田第二工場の開設で生産能力を大幅に増加

2025
創業90周年

2000 2010 2020 2025

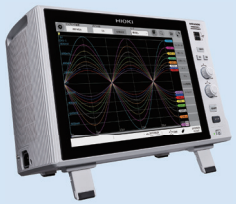
オンリーワン商品を武器に株式市場を切り開く

強化期 1991-2004

1991年に株式店頭公開、2003年には東証一部上場。メモリハイコーダ、超高速フライングプローブテスター、バッテリーテスターなどのオンリーワン商品を次々と市場に投入しました。また、米国市場での販売強化を目標に、アメリカに現地法人を設立し力強い営業活動を展開。HIOKI祭りを初開催するなど、地域社会への貢献にも取り組みました。

新創業元年を宣言し、海外展開を加速

挑戦期 2005-2019



「高付加価値企業を目指す」をスローガンに、技術部門のみならず製造、営業、総務部門に至る全ての部門で独自の取り組みを進め、体質強化に取り組みました。事業のグローバル化を促進するために2007年以降は中国、インド、シンガポール、韓国に販売子会社を設立。また、研究棟「HIOKIイノベーションセンター」を建設し、さらなる技術力や商品力の向上を目指しました。

「ビジョン2030」の実現に向け変化の時代へ

進化期 2020-

ANNIVERSARY
1935 - 2025

VUCAの時代に社会から必要とされる企業であり続けるために、長期経営方針「ビジョン2030」を掲げ、グループ一体経営に取り組んでいます。新工場の開設により生産能力を向上。2024年には新たな組織を設置し、グローバル化を強化するための組織改編も行いました。また、お客様との協創を加速させるための施設も新設し、挑戦を続けています。

地球規模の社会課題に「測る」で挑む

創業時から磨いてきた電気計測のコア技術をベースに、最新技術を融合させたソリューションを展開。持続可能な社会の実現に貢献すべく、環境破壊やエネルギー問題など、地球規模で起こる社会課題の解決を支えています。

HIOKI

世界に誇るコア技術

自動試験装置
電子回路基板や
部品内蔵基板の検査に

記録装置
電気機器の開発や
設備の異常監視に

電子測定器
電子部品・バッテリーの検査や
省エネ、電源の品質評価に

現場測定器
電気工事・設備の
保守点検に

コンポーネント市場
P.7へ

電子廃棄物の増加

インフラの老朽化

エネルギー市場
P.8へ

電力不足

地球温暖化

モビリティ市場
P.9へ

化石燃料依存

バッテリー市場
P.7へ

大気汚染

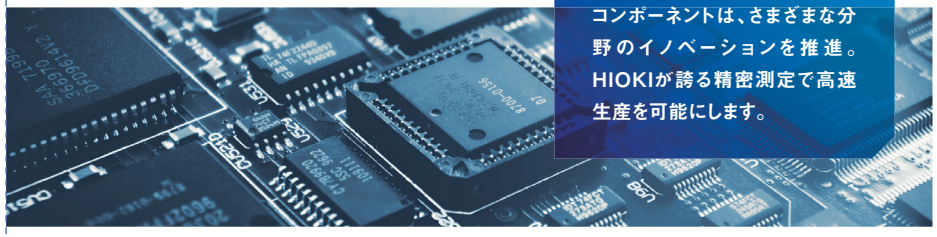
「測る」から始まる HIOKIの注力市場

培ってきた「測る」技術を用いて、さまざまな分野の研究開発の進歩に貢献。
社会のニーズに合わせて、HIOKIのマーケットは大きく広がっています。

精密測定で高速生産を実現

コンポーネント市場

抵抗器やコンデンサなどの電子部品、電気自動車やオフィス機器に用いられるモーターといったコンポーネントは、さまざまな分野のイノベーションを推進。HIOKIが誇る精密測定で高速生産を可能にします。



品質に妥協しない高速生産試験

PCやスマートフォンなどのスマートデバイスには、何百、何千もの電子部品が搭載されています。製造現場で行われている出荷検査で求められるのは、スピードと確度。HIOKIのインピーダンスアナライザーは、その両方を兼ね備えた測定器です。品質に妥協することなく、大量の生産テストを実施することができます。

インピーダンスアナライザ　IM3570

モーター搭載製品の品質と信頼性を保証

電気自動車などのモビリティ、PCやコピー機などのオフィス機器といった、現代に欠かせない製品に使用されているモーター。HIOKIの部分放電検出器は、未来に起こりうる故障を予測して検出することができます。この先進的な試験ソリューションにより、モーター搭載製品の信頼性と耐久性が保証されます。

部分放電検出器　ST4200

持続可能性を推進

バッテリー市場

カーボンニュートラル社会実現のためには、高品質な電池の開発と生産、ライフサイクルアセスメント（生産から廃棄に至るまでの環境負荷の評価）が欠かせません。電気計測のアプローチで貢献します。

次世代バッテリー開発を促進

電気自動車の普及拡大には、高品質な次世代バッテリーの開発が必要不可欠です。HIOKIの電気測定器は、バッテリーに入れる粉末、スラリー、電極シートに電気を流して測定することで、電気的特性を評価することができます。これにより、次世代バッテリーの充電時間の短縮や寿命を向上させる研究を促進させます。

粉体インピーダンス測定システム

高確度検査装置で大量生産を実現

太陽光発電システムなどに使用され、大量生産が必要なバッテリーの製造現場は、スピードと確度に優れた検査装置を求めています。大量生産ラインの業界標準になっているバッテリーテスターや、潜在的な不良要因を検出する絶縁抵抗試験器といったHIOKIの高確度検査装置で、バッテリーの安全性と品質を担保します。

バッテリテスタ　BT6075

高電圧システムの課題を解決

電気自動車には、バッテリーモジュールやバッテリーパックが搭載されています。HIOKIは、これらの高電圧システムの検査に特化したバッテリーテスターを提供。また、バッテリーパックの溶接部の電気抵抗を抵抗計で測ることにより、エネルギーロスや発熱を抑えたバッテリーパックの製造に貢献します。

抵抗計　RM3545

環境変化への挑戦

エネルギー市場

再生可能エネルギー、スマートグリッド、電化の進展など、エネルギー環境は大きな変革期を迎えています。安定的で効率的かつ信頼性の高いエネルギーの未来を保証するため、さまざまな測定ツールを提供しています。

太陽光発電システムの安定稼働を実現

脱炭素社会の実現に向け、太陽光発電の需要は高まっています。システムの大規模化や、より効率的な発電を行うために、発電システムの高電圧化が進んでいます。高電圧システムの点検を安全に行うための直流高電圧プローブP2010や、太陽光パネルの不良判別に役立つ高電圧絶縁抵抗計IR5051など、HIOKIの現場測定器は、太陽光発電システムの保守、点検を支援します。

電源品質の問題を特定

電圧降下、フリッカ（照明が明るくなったり、暗くなったりを繰り返す現象）など電源品質に問題があると、機器の誤作動や故障、最悪の場合発火などの事故につながります。HIOKIの電源品質アナライザは、電源ラインで発生する事象を測定し、いつ、何が起きたか記録、解析します。工場や家庭で安全に電気を使うための保守、点検に役立ちます。

電源品質アナライザ　PQ3198

水素生産技術の進歩を支援

CO_2を排出しないクリーンなエネルギー源として、世界で注目されている水素。水素社会の実現には、水電解装置の主要部品である電解セルの性能向上が不可欠です。革新的な計測システム「ALDAS」は、今まで困難であった大型電解セルのインピーダンス（電気抵抗）を測定し、水素製造技術の進歩に貢献します。

ALDAS-Mini

開発秘話

大型水電解装置の性能を可視化。水素エネルギーの社会実装を、電気計測ソリューションで後押し

R&D本部 計測ラボラトリー
水素エナジーソリューション課
笠井 真

2022年に社内ベンチャー制度を利用し、水素関連ビジネスの専任チームを4人で立ち上げました。きっかけはお客様の声でした。次世代エネルギーとして注目されている水素ですが、世の中に普及するためには、まだまだ生産コストが高いことが大きな課題です。コストを下げるために、水を電気分解して水素を生産するための「水電解技術」に関する研究開発が行われていますが、大規模化に伴い、その性能を測る計測器がなくて困っているという話を聞いたのです。一人の技術者として、「できないことを、できるようにしたい」と思いました。

そこで、HIOKIが培ってきたインピーダンス（電気抵抗）計測の技術と、高電圧・大電流を扱う技術を融合させて開発したのが「ALDAS」です。水素に対する知見がなかったため、自分たちで勉強し、またお客様のもとに何度も足を運び、対話しながらつくりあげていきました。

ALDASによって、大型水電解装置の性能を可視化できたことで、お客様からは驚きや喜びの声をいただき、引き合いも増えた結果、2024年5月には水素エナジーソリューション課として正式に組織化されました。私たちの提供する計測技術によって、水素エネルギーの研究開発も加速するはずです。チーム結成当初から掲げている「電気計測ソリューションで水素エネルギーを社会実装フェーズへ」というビジョンを実現させたいと思います。

電動化の課題を解決

モビリティ市場

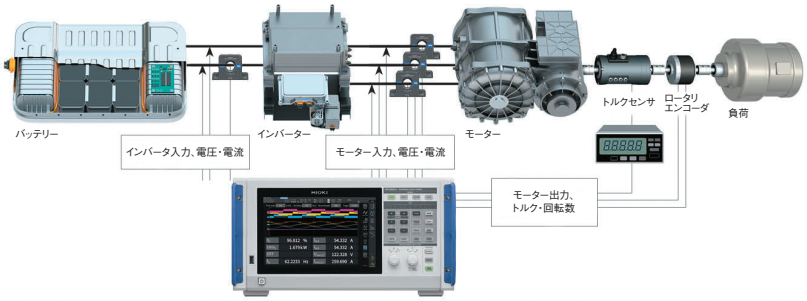
カーボンニュートラルの実現に向けて、自動車、二輪車、農業機械、船舶などモビリティの電動化が加速しています。それによって開発現場でエンジニアが直面している新たな課題に対し、革新的なソリューションを展開しています。

電動モーターの性能を最適化

電動モビリティに使用されるモーターやインバーターは、より効率的で信頼度の高いものを開発するために各メーカーで性能試験が実施されています。HIOKIの高確度パワーアナライザーは、モーターやインバーターの電力変換効率測定において世界最高クラスの測定確度を誇り、開発になくてはならない存在となっています。

優れたモーター開発に貢献

電動モーターの開発現場では、シミュレーションを活用することで、実物を製作せずに性能評価が可能となり、開発効率が大幅に向上します。実物と同等のシミュレーションをするためには、基準となる実物の高確度計測データが必要。これを提供するHIOKIのパワーアナライザーが優れたモーターの開発に貢献しています。



パワーアナライザ　PW8001

エネルギー消費を正確に測定

電気自動車の電費の基準は、年々厳しくなっています。対応するためには、エネルギー消費量を正確に測定することが必要です。高確度クランプ型電流センサーやパワーアナライザーといったHIOKIが提供する測定ソリューションがそれを可能にしています。

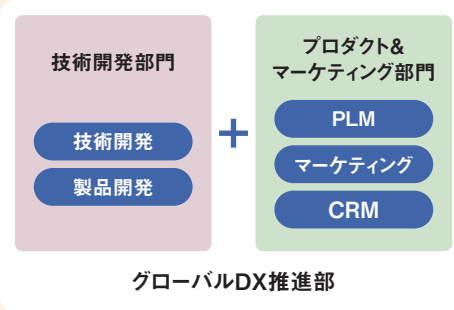
パワーアナライザ　PW3390

社会のニーズを捉え 新たな市場を開拓するために

HIOKIは、社会課題の変化に合わせて新たな製品を生み出し、新たな市場を開拓してきました。脱炭素社会や持続可能性を追求する動きが加速する今、その変化の波を捉えるためには、HIOKIも変わっていくことが不可欠です。今後も将来の市場をいち早く予測し、先頭に立ってイノベーションを起こす「業界のフロントランナー」になることを目指します。

鮮度の高い情報にタイムリーに対応する仕組みを構築

2024年5月に組織改編し、マーケティング部門をプロダクト&マーケティング部門として再編。製品の企画・開発とマーケティング・コミュニケーションとの連携を強化することで、お客様から得た鮮度の高い情報にスピード感をもって対応できるようにしました。さらに社内外のDXを推進することで、意思決定のスピードを加速します。

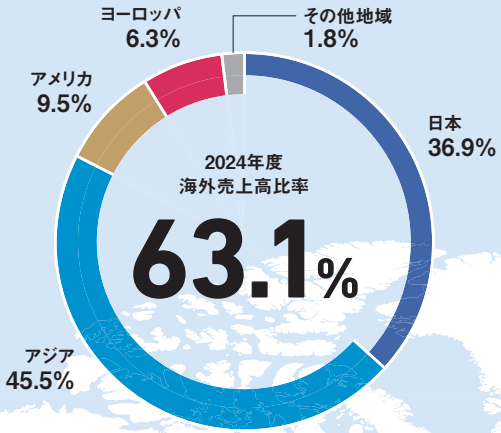


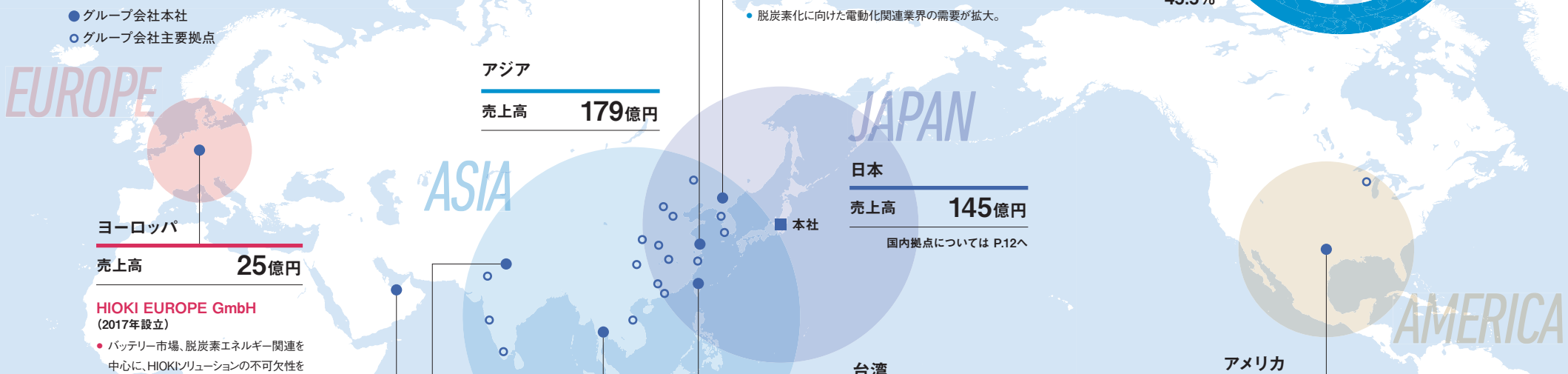
全社員がソリューションクリエイターを目指す

「ビジョン2030」で、10年後のありたい姿として、お客様と共に持続可能な社会をつくるソリューションクリエイターになることを掲げました。すなわち、全社員がお客様と信頼関係を構築し、その課題解決について自ら考え、行動できるようになること。それによって、年々高まるお客様の期待に応え、イノベーションを生み出し続けます。

高品質なHIOKIブランドで世界の技術開発に貢献

1998年に初の海外拠点を開設して以来、HIOKIはグローバル視点で製品開発や販売網の構築に取り組んできました。今では販売拠点を10か国、販売店を30か国以上に展開。海外売上高比率は60%以上に伸長しています。





●グループ会社本社
○グループ会社主要拠点

■本社

中国

日置（上海）測量技術有限公司（2007年設立）

- 電池メーカーの海外シフト、全固体などの新技術開発が進展。
- EV分野に加え、自然エネルギーや半導体分野など、成長産業を深耕。

韓国

HIOKI KOREA CO., LTD.（2012年設立）

- 脱炭素化に向けた電動化関連業界の需要が拡大。

アジア

売上高 **179億円**

日本

売上高 **145億円**

国内拠点については P.12へ

ヨーロッパ

売上高 **25億円**

HIOKI EUROPE GmbH
（2017年設立）

- バッテリー市場、脱炭素エネルギー関連を中心に、HIOKIソリューションの不可欠性を強力に浸透させていく。

台湾

台湾日置電機股份有限公司（2018年設立）

- 電子部品メーカーが多い台湾で市場を深耕。

アメリカ

売上高 **37億円**

HIOKI USA CORPORATION
（1998年設立）

- 脱炭素に向けた新エネルギー関連産業への投資が活発化。

インド

HIOKI INDIA PRIVATE LIMITED（2016年設立）

- Make in India政策の加速で製造業の投資増を見込む。特にEV市場における自動車、電池関連の成長が期待される。

アラブ首長国連邦

HIOKI MEA FZCO（2024年設立）

- 再生可能エネルギー発電事業が急速に拡大。脱炭素分野への積極投資が見込まれ、エネルギー効率を求める分野への測定器需要が高まる。

東南アジア

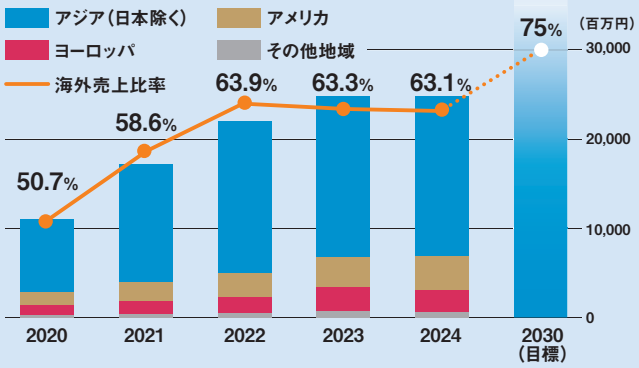
HIOKI SINGAPORE PTE. LTD.（2010年設立）
PT. HIOKI ELECTRIC INDONESIA（2023年設立）
HIOKI ELECTRIC (THAILAND) CO., LTD.（2024年設立）

- バッテリーやEV関連市場へ注力。重点顧客、関係団体への案件創造やブランド浸透が進展。
- インフラ、教育機関、部品産業などのポテンシャル市場への深耕を加速。

地域ごとの「測る」ニーズに応える各国での取り組み

HIOKIでは、海外市場においても現地社員と密に連携し、地域ごとに異なる「測る」のニーズをリアルタイムに把握。新製品開発へフィードバックすることで、より精度の高いソリューションの提供を可能にしています。

海外売上高と海外売上高比率



グローバル強化に向けた3つの施策

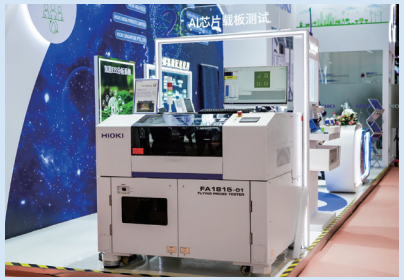
- **プロダクト&マーケティング部門の設立**
- **技術開発部門の役割を再定義**
- **グローバルDX推進部の設立**

海外売上高比率70%以上を達成するため、3つの大きな組織変更を同時に行いました。それにより、多様化する世界のお客様のニーズを探索して企画化に進める機能や、製品開発だけでなく技術開発に特化した開発体制を強化。また、DXの推進により、国単位では見えてこない各エリアの動きを迅速に捉え、ニーズの具現化へのスピードアップを図ります。

CHINA

高精度な戦略・投資を可能にする日置中国の新たな営業体制

日置中国グループでは、2020年に海外初の開発拠点を設立して以来、技術者がお客様に直接ヒアリングして製品を企画・研究するなど、成長著しい中国において、タイムリーな製品開発に取り組んできました。
一方で、販売では、より精度の高い戦略立案やアクションを実施するため、営業体制を「地域別営業」から「市場別営業」に変更。これにより業界別のデータ分析も解像度が上がり、中国市場で注力してきたバッテリーリサイクルやEV分野に加え、自然エネルギーや半導体分野など、成長産業への戦略的投資が可能となりました。
需要にいち早く応える開発力と業界ごとのニッチなニーズを逃さない新たな営業体制で、不可欠性の高い顧客密着型の計測ソリューションを提供しています。



INDIA

インドの主要産業の発展とEV市場の成長に貢献

人口が14億人を超え世界1位になったインドは、政府が2014年に開始した国策キャンペーン「メイク・イン・インディア（Make in India）」のもと、自動車、航空宇宙、電子機器などの主要産業の振興と、それら製造業の基盤となるインフラ整備に大きな力を注いでいます。
特にEV市場は、2025年の政府の政策支援、大手自動車メーカーのEVの新モデル投入、電池の生産工場の新たな設立などにより大きく成長することが期待される分野です。
HIOKI INDIAとしては、これらの動きにさらに深く対応するため、主要エリアへの営業員の増員と重要エリアであるインド南部に複数の新たな支店の設立を計画。インドの製造業発展の一助となっていきます。

AMERICA

北米・南米のあらゆるニーズにお客様との対話を通して応える

北米地域は、五大湖周辺地域では自動車産業、東西海岸地域ではEV・バッテリー関連産業と地場産業が発展する一方、広い地域でエネルギー関連のメンテナンス市場が展開するなど、多種多様なニーズが存在するエリア。一方、中南米地域はインフラ産業を中心としたメンテナンス市場が主要フィールドとなります。このように、地域で異なる需要に高いクオリティで応えるための販売体制を整えています。そこで欠かせないのが、お客様との対話。例えば、アメリカでは流通業者を介さない直接販売を強化し、お客様の声を聞きながら適切なソリューションを提供しています。さらに顧客訪問や面会の機会を増やすため、2025年1月には地域セールスを増強するなど、体制変更を実施。HIOKIの顧客密着の姿勢をさらに強固にしています。

顧客密着型の拠点で HIOKIの不可欠性と存在価値を付加したソリューションを提供

**HIOKIの強みは、お客様のニーズに応える高品質な製品を届けられること。
それを可能にするのは、長野県上田市の本社を中心に広がるHIOKIのネットワークです。
各地域を起点にお客様の声を直接聞きながら進める姿勢で、
課題解決に不可欠な存在となれるようお客様に寄り添います。**

中部エリア

主な対応領域：さまざまな業種、主に電子部品（生産）

中国エリア

主な対応領域：コンデンサ（生産）、自動車（開発、生産）

東北エリア

主な対応領域：電子部品（開発、生産）

関東エリア

主な対応領域：さまざまな業種の研究開発（パワーエレクトロニクスや水電解装置など）

東海エリア

主な対応領域：自動車業界（開発、生産）、パワーエレクトロニクス（開発、生産）

関西エリア

主な対応領域：電子部品（開発、生産）、バッテリー（開発、生産）

九州エリア

主な対応領域：コンデンサ・半導体パッケージ（生産）、自動車（生産）

●…SSH (Sales & Solution Hub)
マーケット軸に重点を置いたテクニカルセンターを設置し、市場別のテクニカルサポートおよびセールスサポートを提供

○…SEO (Sales Expert Office)
顧客密着により顧客満足度の高いセールスサポートを提供

イノベーションセンター（研究棟）

フォレストヒルズカフェ

HIOKIロッジ（社員寮）

緑豊かな環境で生き生きと自発的に挑戦

HIOKIフォレストヒルズ

「HIOKIフォレストヒルズ」には開発、生産、および販売・サービスを担う全部門が集結。世界に向けて計測の先進技術を提供できる環境を構築しています。また敷地内には、各種スポーツ施設やHIOKIロッジ（社員寮）があり、仕事だけでなく趣味やプライベートを充実させることで、個人の力を最大限に発揮できる環境を整えています。

お客様とのさらなる協創を目指す

協創ラボラトリー［本社］
横浜テクニカルセンター［東日本SSH］
大阪テクニカルセンター［西日本SSH］

社会の変化に対応し、革新的計測ソリューションを具現化するために協創施設を設立。多彩な測定設備を整えたオープンラボ「テクニカルセンター」や研究棟の一部を開放した「協創ラボラトリー」で、お客様や協業各社様と新たな課題の発見と解決を推進していきます。

協創ラボラトリー

バッテリーラボ（協創ラボラトリー内）

横浜テクニカルセンター

日置電機 採用サイトはこちら
https://www.i-note.jp/hioki/recruit/index.html

社員自身の「パーパス」を尊重。「ビジョン2030」の実現に貢献するHIOKIの人づくり

HIOKIは1986年に制定された「人間性の尊重」と「社会への貢献」という理念のもと、「人」への投資を惜しまない「人間性尊重経営」を貫いてきました。2020年からはさらに、長期経営方針「ビジョン2030」の実現に向け、社員個人のパーパス「やりたい（実現したい、挑戦したい、貢献したい）という意思」を尊重し、一人ひとりの自己実現が可能な職場環境づくりを推進しています。

HIキャリア制度スタート

当社では、人的資本への投資が会社の競争力を高めるという考えのもと、「人」中心の経営を行ってきました。その取り組みのひとつとして、「個人の強み」をさらに伸ばすため、社員の挑戦をサポートする「HIキャリア制度」を2025年度から実施します。個人のパーパスの実現、そして働きがい（働きやすさ×やりがい）の向上を目指して、さまざまな施策に取り組んでいきます。

施策

働きやすさ

- 新しい働き方
  - 長期在宅
  - 裁量型
- 給与制度
  - ベネフィット
  - 帰省手当
  - 一時帰国手当

やりがい

- 選択
  - キャリアコース
  - 勤務エリア
  - 自薦昇格
- 給与制度
  - 役割手当
  - グローバルインセンティブ
  - 昇格昇給

全社員が自律性を持ったソリューションクリエイターとなり、社会に不可欠な組織になる

各種研修・自己啓発支援

新入社員研修・マンツーマン研修をはじめ、階層別やグローバルに活躍するための研修、一般教養・公開講座、選抜研修などを実施。また、通信教育・公的資格補助・語学学習などの自己学習に対する支援制度もあり、社員一人ひとりの継続的な学びと成長を促しています。
さらに、次代のHIOKIを支えるリーダー人材育成のため、グローバル人材とマネージャー人材の育成に注力しています。希望者には、入社後の早い段階からさまざまなチャンスがあり、将来のリーダーとして必要な経験とスキルを身につけていきます。

社員のチャレンジを支援

社内ジョブチェンジやプロジェクト、社内ベンチャーなど、新たな役割や課題解決に挑戦する取り組みを進めてきました。
「ビジョン2030」の達成に向け、部署や部門を超えてチャレンジする機会を促進しています。

初の「ベストワークプレイス」に認定

ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）に取り組む企業を認定する「D&I AWARD 2024」において、最上位の認定である「ベストワークプレイス」に認定されました。これからもHIOKIは、全ての人が働きやすい職場環境をつくるためのサポートの拡充や制度の整備を進めていきます。

「人間性の尊重」「社会への貢献」を体現するHIOKIのサステナビリティ

2022年に策定した「サステナビリティ基本方針」を軸に、「HIOKIサステナビリティ宣言」を策定し、再生可能エネルギーの利用や次世代モビリティの活用、地域の緑化推進など、多角的なアプローチで環境保全や社会貢献に取り組んでいます。2024年5月には国連グローバル・コンパクトに参加。ステークホルダーの皆様と共に、持続可能な未来の実現に挑戦し続けます。

サステナビリティ基本方針

HIOKIグループは、「人間性の尊重」「社会への貢献」という理念のもと、事業を通じて持続可能な社会の実現に貢献します。

- **電気計測を通してお客様の安全で有効なエネルギー活用を促進し、社会の安心と発展に貢献する**
- **全てのステークホルダーの皆様と、積極的なコミュニケーションを通じて信頼関係を構築する**
- **社会の一員として、社会の発展に役立つ活動や環境保全活動に取り組む**

HIOKIサステナビリティ宣言

脱炭素化に向け、以下目標に基づき取り組みを継続。

2025年（創業90周年）	2035年（創業100周年）
スコープ1、スコープ2のカーボンニュートラルを達成	**スコープ3のカーボンニュートラルを達成**

※ スコープ3は、2035年までの目標に向け、できる限り排出権取引に頼らずカーボンオフセットを実現する方針。
※ スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス）
スコープ2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
スコープ3：スコープ1、スコープ2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）

「HIOKIフォレストヒルズ」の脱炭素化

1988年に初めて植樹して以降、現在に至るまで「HIOKIフォレストヒルズ」には約93,000本の木々が社員の手によって植えられてきました。そんな緑に囲まれた本社一帯では、脱炭素化に向けて、ガスエネルギーからカーボンニュートラルガスへの切り替えや社用車のEV化などを実施。さらに、本社社屋のZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビル）化の検討やソーラーカーポートの建設（2025年度完成予定）といった取り組みも進んでいます。リチウム蓄電設備も活用して、本社で使用する電気の約半分をまかない、温室効果ガス排出量を大幅に削減していきます。

乾電池使用製品の充電池（ニッケル水素充電池）の活用

充電して繰り返し使える「ニッケル水素充電池」への切り替えを促進。ニッケル水素充電池を使用することで、電池の廃棄や交換を大幅に削減できるため、電池の製造や廃棄に伴うCO_2の削減に貢献します。また、消費電流の大きな製品にニッケル水素充電池を使用すると、従来のアルカリ電池に比べ、連続使用時間が長くなるため、電池の交換回数も削減できます。

資材調達基本方針の改定

より健全で誠実な調達活動の実施を目指して、2022年に資材調達基本方針を改定しました。新たな方針では、法令遵守や適切な情報管理に基づく公平・公正な取引、パートナーの皆様との取引を通じて相互発展できる関係性の構築を明文化。また「グリーン調達ガイドライン」を設定し、地球環境に配慮した資材調達活動にも努めています。

資材調達方針説明会の様子

HIOKI祭り

地域との交流を目的としたHIOKI祭りを2000年から毎年開催。社員がホストとなって地域の皆様をおもてなしする貴重な機会となっており、屋台や野外ステージなどの屋外イベントのほか、工場見学やでんき工作教室、お茶席など、多彩なイベントの企画から運営までをグループ社員が行います。2023年の開催時には、NHKの人気番組「魔改造の夜」で放送された「ぱんだ幸村」のリベンジ走行や「スパイダー魔人」の機構展示も行い、たくさんの方々に楽しんでいただきました。

ふるさとの森づくり

1995年から、学校や公共施設へ苗木を寄贈し、子どもたちや地域住民と共に緑化を推進する活動を開始。苗木を植えるだけでなく、次世代を担う子どもたちへの環境教育の場としても地域に貢献しています。
本社がある上田市周辺から始めた同活動は、植樹対象地域を拡大するため、2005年に公益財団法人HIOKI奨学・緑化基金を設立。その後、長野県全域に活動を広げ、植樹してきた苗木の数は累計70,000本以上に及んでいます。

理工学生への奨学金給付

1989年に公益信託フォレストヒルズ奨学基金を設立。技術者育成の支援および地域社会への貢献を目的に、4年制大学理工系学部に進学する学生を対象とした奨学金の給付を開始しました。現在は、この事業を公益財団法人HIOKI奨学・緑化基金が継承。若い技術者の育成を支援すると共に、地方都市の成長発展への契機となるよう運営を続けています。

自然共生サイト認定

2024年10月に「HIOKIフォレストヒルズ」が環境省の自然共生サイト（OECM）に認定されました。OECMは生物多様性の保全を目的として、自然環境を保護・管理する地域を指定する国際的な制度。植樹や木々の維持管理をはじめ、希少植物の生息地を中心とした保全活動、社員や来訪者への自然と触れ合う機会提供が評価されました。

「自動運転EVバス」「公共交通機関による通勤」の実証実験

2023年に上田市などの協力を得て、自動運転システムを搭載したEVバスの実証実験を実施。また、2024年6～8月にかけて、長野県が提唱する「マイカー移動からの転換等促進事業」の一環として、他の事業会社と「1週間に1回公共交通機関で通勤する」実証実験を共同実施しました。CO_2削減に寄与するだけでなく、地域の公共交通機関の活性化にも貢献します。

HIOKI
日置電機株式会社

〒386-1192 長野県上田市小泉81
TEL：0268-28-0555　FAX：0268-28-0559

最新情報、製品の詳細などは、公式サイトをご覧ください。

https://www.hioki.co.jp/

HIOKI

20250226